

# ピースボート地雷廃絶キャンペーンP-MAC 2018年度活動報告書



## ピースボート地雷廃絶キャンペーンP-MACとは

地雷廃絶を目指し、NGOピースボートの一プロジェクトとして1998年に設立しました。平和、人権、環境、国際交流などをテーマとしたピースボートの地球一周クルーズで、カンボジアや旧ユーゴスラビアなどを訪れ、深刻な地雷被害の状況を知ったことが設立のきっかけです。世界では、2017年の1年間にわかっているだけでも7,239人が地雷や不発弾による被害にあいました。たとえ戦争が終わったと報道されていても、その地域に暮らす人々にとって、地雷がある限りまだ戦争は終わっていません。P-MACは発足以来、地雷廃絶を目指して、地雷除去や被害者への支援、地雷問題を伝える活動を続けています。

## カンボジアから地雷をなくそう 100円キャンペーン

### <カンボジアの地雷問題>

カンボジアでは1993年ごろから地雷除去活動が始まりましたが、今も多くの地雷が残されています。1990年代には毎年数千人の地雷や不発弾による被害者が報告されていましたが、都市部など人口が多い場所の地雷除去が進んだことで、2016年にはじめて被害者数が100人を切りました。2018年の1年間の被害者数は58名でしたが、2019年は1~4月の4か月間ですでに47名が被害にあっています。



カンボジアでは過去25年間で約1,700平方キロメートルの地雷除去が完了しています。政府は2025年までに地雷除去完了をめざしていますが、地雷対策庁(CMAA)はさらに2,000平方キロメートルの地雷除去のために約4億ドル(434億円)が必要と推計しています。

### <100円キャンペーン報告>

地雷除去には膨大な時間と労力がかかります。しかし、地雷除去にかかるコストは1㎡あたり約100円です。そこでP-MACでは、募金活動「カンボジアから地雷をなくそう100円キャンペーン」を展開しています。全国5か所のピースボートセンター(東京、横浜、名古屋、大阪、福岡)で街頭募金活動をおこなっています。2018年度は全国で合計244回の街頭募金をおこないました。また、全国のみなさまからもご寄付いただきました。



集まった募金は現地地雷除去団体「カンボジア地雷対策センター(CMAC)」へ送り、地雷除去がおこなわれています。

## 2018年度募金報告

### 【募金総額】

2018年度の募金総額	¥2,677,235-
2017年度より繰越金	¥1,723,343-
合計	¥4,400,578-

### 【上記の募金は以下のプロジェクトに使用しました】

コーケー村地雷除去	¥1,674,870-
次回へ繰越	¥2,725,708- (2019年度におこなう地雷除去にあてます)
合計	¥4,400,578-

## <地雷除去支援したコーケー村について>

2018年度はカンボジア北部、プレアヴィヘア州に位置するコーケー村の地雷除去を支援しました。コーケー村は921～941年まで都が置かれた古都の村です。世界遺産であるアンコールワットなど多くの寺院が建設されカンボジアが繁栄を極めたアンコール時代にわずか20年ほど都となったため、コーケーは「幻の都」とも呼ばれています。今でも多くの遺跡が残されていて、近年は遺跡観光に訪れる観光客も増えています。

しかし内戦中には多くの地雷が埋められ、今もその地雷が村人の生活に大きな影響を与えています。1980年代、ベトナム軍やカンボジア政府軍、ポル・ポト軍などによって地雷が埋められ、また戦闘が起こったことで多くの不発弾も残されました。コーケー村の農地や宅地、そして遺跡周辺にも地雷が残っていることが判明しています。

2005年、P-MACはコーケー村の地雷除去とその土地への小学校建設を支援しました。その後も通学路となる道路や保健所、村に残る遺跡周辺の地雷除去を支援してきました。同時にスタディーツアーで村を訪れて、村人との交流や小学校での教育支援を続けています。

今回地雷除去を支援したのは、コーケー遺跡の中でも代表的なピラミッド型の寺院「プラサー・トム」の隣に広がる森です。プラサー・トムには多くの観光客が訪れていますが、そのすぐ近くに地雷原がありました。またこの森は村人が農業や牛飼いやなどで日常的に使っている場所です。2018年5月～7月にかけて地雷除去活動がおこなわれ、安全な場所に生まれ変わりました。



<地雷除去終了を示す看板>

## <地雷除去支援概要>

場所	カンボジア プレアヴィヘア州コーケー村 (Koh Ker Village, Srayong Commune, Kulen District, Preah Vihear Province)
期間	2018年5月1日～2018年7月31日
実施機関	CMAC第6部隊第7技術調査および除去チーム
費用	1,674,870円 (15,028米ドル)
除去面積	152,455㎡
除去された対人地雷	3個
除去された手製地雷	13個
除去された不発弾	46個

※2019年度への繰越金¥2,725,708については、P-MACが支援を続けているもう一つの村であるスナハイ村（プレアヴィヘア州）で、2019年8月から実施する地雷除去に使用する予定です。

## 地雷被害者への木工彫刻トレーニング

カンボジアの障がい者の自立を支援するため、現地NGO「アンコール障がい者協会（AAD）※」がおこなう木工彫刻トレーニングを資金面でサポートしています。彫刻技術を習得し、商品を制作、販売し収入を得ることで、貧困に苦しむ障がい者やその家族がより良い生活を送れるように支援しています。AADでつくられた彫刻をピースボートの船内で販売し、売り上げの一部を彫刻トレーニングにあてています。

P-MACは2012年7月～2015年6月にも同様のプロジェクトを支援しました。その3年間にトレーニングを受けたのは、のべ13名。地雷被害やポリオなどの病気のために脚に障がいを持ち、働くことができなかつたり、家に引きこもつたり、差別を受けてきた人々です。これまで貧しい生活を余儀なくされてきましたが、彫刻トレーニングを受けることで彫刻家として自立したり、仕事を得ることができました。またこれまで引きこもりがちだった被害者がトレーニングをきっかけに社会復帰することができ、他の仕事を得た人もいます。



2019年の1年間は、6名の障がい者がAADで木工彫刻トレーニングを受けています。P-MACは、そのうち3名のトレーニングを支援しています。彼らはいずれも地雷被害により脚を失った男性です。また全員結婚して子どももいます。父親である彼らが職業

訓練を受けて社会復帰することは、家族全員が貧困から抜け出し、子どもたちが必要な教育を受けられることにも繋がります。

※アンコール障がい者協会（AAD）

内戦で地雷被害にあい、両脚を失ったセム・ソワタさんが2003年に設立したカンボジアのNGO。障がい者の差別と貧困のサイクルに終止符を打ち、経済的・精神的な自立を通してよりよい未来をつくるため活動しています。職業訓練、社会復帰のための精神的なサポート、障がい者の人権問題についての啓発活動などをおこなっています。

## 「ピースポート・スナハイ小学校」手洗いプロジェクト

ピースポートはLUSH（株式会社ラッシュジャパン）と協力し、P-MACが地雷除去と小学校建設を支援したスナハイ村の小学校に継続的に石けんを届けています。小学校で石けんを使いだしてから1年で、子どもたちの健康状態が大きく改善しました。

カンボジアの5歳未満児死亡率は1,000人あたり31人（日本は3人）です。ワクチンで予防可能な病気や下痢が主な死亡原因です。また下痢になったときに経口補水塩による適切な治療を受けられる子どもは35%、カンボジア農村部で衛生的なトイレを使えるのは39%です。カンボジアの子どもたちが置かれている衛生環境は深刻です。（データは「世界子ども白書2017」より）

スナハイ村でも子どもたちが体調を崩すことは少なくありませんが、周辺に医療サービスを受けられる場所はありません。村の子どもたちが健康でいられるよう、また子どもたちから大人たちにも衛生管理の大切さを伝えていけるよう、小学校の先生方と協力して手洗いプロジェクトを進めています。

このプロジェクトを始めたのは2017年8月で、この時は350個の石けんを小学校に届けました。石けんは学校だけでなく、生徒1家族につき1つの石けんを家に持って帰って使えるようにしています。ラッシュの石けんはいい香りのするものが多く、子どもたちは楽しみながら石けんを使い、手洗いの習慣づけができるようになってきました。

約1年後の2018年9月に学校を訪問した際には、先生からこれまであった子どもたちの体調不良（主に発熱、下痢、腹痛）が半減したと報告を受けました。そして、この時も220個の石けんを届けました。1年でとても大きな成果に結びつきました。手洗いの習慣を根付かせるためには、さらに継続した活動が必要です。今後も先生方と情報共有しながら石けんを届けていく予定です。



<生徒代表の子どもたちに石けんを手渡す>



<手洗いの歌を歌って楽しみながら手洗い>

## トークイベント「これがわたしの生きる道！～カンボジアの小さなNGOが生み出す大きな希望～」

2019年2月28日、ピースポートセンターおおさかでカンボジアのNGO「カンボジアン・ハンディクラフト・アソシエーション（CHA）※」のセム・トラーさんによるトークイベントを開催しました。

CHAは女性障がい者の自立支援をおこなう現地NGOです。女性に縫製技術のトレーニングをおこなうと同時に、差別や暴力などで傷ついた女性たちの心のケアや社会復帰に向けた様々な訓練をおこなっています。これまでに300人以上がCHAを卒業して自立していきました。

セム・トラーさんもCHAでトレーニングを受けた一人で、現在はCHAのスタッフとして、新たにやってくる女性たちを支援しています。



<約50名の方にご参加いただきました>

今回の来日はトラーさんにとっては初めての海外、はじめての人前でのトークということで、緊張しながらも自身の半生について語っていただきました。

この企画はCHA JAPANとの共催イベントとしておこないました。CHA JAPAN代表の竹村彩花さんは、9年前にP-MACがおこなったカンボジア地雷問題検証ツアーの参加者です。その時にはじめてCHAを訪問し、それがきっかけでCHA JAPANを設立しました。現在はCHAの商品を日本に広めるために活動しています。今回のトラーさんの来日は、CHAの商品が日本でどのように販売されているかを知ることで、CHAの人々の自信につなげてもらいたいとの想いから実現しました。

## カンボジア地雷問題検証ツアー

### <第97回ピースボート>

第97回ピースボート「アジアグランドクルーズ」(2018年3月7日～4月23日)は、4月7日～9日にかけてカンボジアのシアヌークビルに寄港しました。ピースボートがはじめてカンボジアを訪問したのは、まだ内戦が終結していなかった1985年です。それ以降今回で6回目のカンボジア寄港となりました。

カンボジア寄港の直前約1週間、カンボジア地雷対策センター(CMAC)上級センター長のプルム・スオンプラセトさんに乗船していただき、地雷が埋められた背景となるカンボジアの歴史と現在のカンボジアが抱える地雷問題について講演していただきました。クルーズに参加している多くの方が講演会に参加し、カンボジアの地雷問題について、そしてピースボートがおこなう支援について知っていただくことができました。



<船内で講演するプルム・スオンプラセトさん>

4月7日、ピースボートがシアヌークビル港に到着した際にはCMACが歓迎セレモニーを開いてくださいました。伝統音楽の楽団とダンスには参加者から大きな拍手がおくられました。CMACの方々には本部のある首都プノンペンから5時間かけてピースボートのため港までお越しくくださいました。そして、そのまま船内を見学。CMACのみなさんにもピースボートの活動についてより知っていただく機会となりました。また、入港中はプノンペンでカンボジア地雷問題検証ツアーを開催しました。

### <第99回ピースボート>

第99回ピースボート「地球一周の船旅」(2018年9月1日～12月18日)内で、カンボジア地雷問題検証ツアーを開催しました。カンボジアの地雷除去現場の視察や地雷被害者との交流、地雷除去を支援したスナハイ村を訪問しました。

また、地球大学「特別プログラム」でもカンボジアを訪問しました。このプログラムは英語で行う短期集中プログラムです。国連の持続可能な開発目標(SDGs)の一つである「持続可能で包摂的な社会をつくる」をメインテーマに掲げ、日本、台湾、マレーシア、インド、東ティモール、ブルネイ・ダルサラームから集まった17名が学びました。参加者は第99回ピースボートのアジア区間(横浜～厦門～シンガポール)に乗船し、下船後はカンボジアで1週間の現地実習を行うことで内戦の爪痕と復興のプロセスについて学びました。その中で地雷被害者を支援するNGOや地雷除去現場、スナハイ村を訪問しました。



<除去現場を見学するツアー参加者>

## ピースボート地雷廃絶キャンペーンP-MAC 2018年度活動報告書

発行：ピースボート地雷廃絶キャンペーンP-MAC

編集：森田幸子 発行日：2019年7月25日

### P-MACの活動にご協力をお願いします！

皆さまからいただいた募金は地雷除去・被害者支援などの地雷廃絶活動に使わせていただきます。

郵便振替口座 00130-3-557600

ゆうちょ銀行 ゼロイチキユウ店(〇一九店) 当座 0557600

加入者名 ピースボート地雷廃絶キャンペーンP-MAC

[お問い合わせは下記までお願いします]

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-13-1-B1

TEL: 03-3363-7561 FAX: 03-3363-7562

E-MAIL: pmac@peaceboat.gr.jp

URL: <http://peaceboat.org/projects/pmac>